

親鴨だより

2004年 5月号

第210号



四月、五月は暖かい陽気の中で万物は競って生育し、百花が一斉に花開き、鳥は歌い、空は澄み渡り新緑の生える清々しい季節であります。又、人々の精神と気力を充実させ、気持ちを陽気にします。この季節、会員の皆様におかれましては充実した毎日を過ごされていることと推察致しております。

親鴨会も今年度の総会が無事終了し、これから具体的な行事活動に入っていきますので、各行事の参加を通して会員相互の旧交を温め、また交流を深める場となるよう期待します。

さて、今年も国内外を問わず相変わらず暗いニュースが続いています。人間の愚行とも言うべき戦争の延長線上で「自爆テロ」という不気味な恐怖に世界は慄いている中、自衛隊の「イラク復興支援活動」がスタートしましたが、自衛隊の皆さんが、テロの標的とならず無事支援活動が完遂できるよう心から祈る毎日です。又、去年の新型肺炎騒動に続いて今年は鯉ヘルペス、BSE、鳥インフルエンザなどが感染経路もはっきりしないまま私達の日常生活を次々と脅かしていますし、更に事件に目を向けると、親の子に対する虐待や簡単に人を殺める事件の報道が多く、何か他人に対する優しさ、弱者に対して思いやる心まで壊されていくようで暗澹たる気持ちにさせられます。

しかし一方で、明るい話題も幾つかありました。日本経済は依然として厳しい状況にはあるものの改善の兆しも現れ初めたこと、様々なスポーツで浚刺とした若者達の活躍などが挙げられます。このような明るい話題に希望を乗せて前向きに過ごしていきましょう。

ここしばらくは快適な季節が続きます。親鴨会のみならず、家族、地域においても楽しくふれあい心豊かな日々が過ごせますよう、会員並びにご家族の皆さまの益々のご健勝とご活躍をお祈りします。



野洲支部:柴原 喬